

1. 活動名

東京都 中央区

「本の森ちゅうおう」(郷土資料館と京橋図書館等の複合施設)

2. 調査の目的

(1)本市における課題

松本市では、開館して約30年の中央図書館があり、老朽化が進んでいる。

そのうえ、駐車場が狭いなど、人が集まる拠点としての機能が弱いという課題から駅前図書館構想が生まれ、近いうちに検討が行われる可能性がある。

(2)調査の必要性

中央区「本の森ちゅうおう」では街中の図書館として、こどもから大人までが集い、図書館としてだけでなくコミュニティの生まれる場となっている点を本市へ参考に調査したい。

(3)調査項目

「本の森ちゅうおう」……現地視察・説明

3. 調査地選定理由

(1)東京都中央区

「旧京橋図書館」の老朽化により建て替え2022年開館。単なる図書館ではなく、郷土資料館、博物館、カフェなど交流機能をもった複合施設であり、本市が駅前に設置しようとする図書館と、立地、目的が符合するため調査地として選んだ。

4. 調査結果

(1)日時 2026年3月29日(日)

(2)出席者 4名 近藤晴彦・上條美智子・内田麻美・大久保美由紀

(3)成果・所感等

利用料……無料

利用時間	月～土曜	午前9時から午後9時
	日曜・休日	午前9時から午後5時

立地 JR 京葉線八丁堀駅から徒歩1分

コミュニティバス「江戸バス」八丁堀停留所からすぐ

建物は5階建て 6階は屋上庭園となっており、展望台もある

1階 エントランスホール 多目的ホール 郷土資料館常設展示 カフェ

2階 郷土資料館企画展示室 おはなしのへや 学習用端末 こどもコーナー

3階 メインカウンター 予約資料コーナー 一般学習室 グループ学習室

対面朗読室 文学書

4階 レファレンスカウンター 一般学習室 学習用端末 総記・情報学など

5階 ラウンジ 交流活動室 哲学・心理学・宗教学など

建物コンセプト

「森」をテーマにした空間になっており、前面ガラス張りのフロアは、明るく、開放的。床なども木材を多く利用しているため音も静かで温もりを感じる空間になっている。また本棚の設置が曲線的であるため、ゆっくりと歩いて本と出会うイメージ

近辺に飲食店が少ないためか、カフェはいつも席が埋まっており、喫茶だけでなく、ゆっくりと過ごす憩いの空間に

所感 現地視察が日曜日であったためか、ベビーカーを押した親子連れが多く目についた。近隣から来ているのか尋ねたところ、バスに乗って他区から来ているとのこと。また、どのフロアの学習コーナーもほとんどの席が埋まっており、各階に設置されたテラスでも学習している姿を多く見かけた。特に印象的だったのが、1階エントランスホールで、学習する子どもは勿論、カードゲーム、おしゃべりなど思い思いに過ごしており、まさに「ユースセンター」機能を果たしていると感じた。

また、こどもコーナーが充実しており、よみきかせの部屋や靴を脱いで遊べる空間が若い親子連れに人気

郷土資料館では、中央区の400年の歴史に触れる資料などおしゃれに展示されており、専門的分野の欲求に応える

今後、図書館のあるべき姿を垣間見た気がいたします。

まずは老若男女が「訪れたくなる空間」「滞在したい空間」であることが、今求められており、その集まりのなかから、自発的なつながりや活動が生まれてくるのだと感じました。

5. 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 157,040 円

【交通費 13,460×4 名】

【宿泊代 25,800×4 名】

以上